

## 第9回（平成19年度）IODP部会・執行部会 議事録（案）

日時：2008年3月31日（月） 13：30～17：30

場所：JAMSTEC 東京事務所 大会議室

### 出席者（敬称略）

執行部：川幡穂高（東京大学）阿波根直一（北海道大学）荒井晃作（産業技術総合研究所）  
安間 了（筑波大学）池原 実（高知大学海洋コア総合研究センター）  
井上麻夕里（東京大学海洋研究所）北村晃寿（静岡大学）  
小平秀一（海洋研究開発機構）坂本竜彦（海洋研究開発機構）高澤栄一（新潟大学）  
日野亮太（東北大学）松本 剛（琉球大学）山崎俊嗣（産業技術総合研究所）  
山田泰広（京都大学）山本啓之（海洋研究開発機構）

文部科学省海洋地球課 : 宿利一弥  
海洋研究開発機構 国際課 : 笹山岳大 肥田慎司  
海洋研究開発機構 CDEX : 川村善久 江口暢久  
地球科学技術総合推進機構 : 岡野誠一

事務局：中山敦志 加賀谷一茶 梅津慶太 吉岡由紀

### 議事次第

1. J-DESC/AESTO 旅費規程変更のご報告〔事務局〕
2. SPC, PMO 会議報告〔川幡部会長, 事務局〕
3. 乗船者公募関連
  - ・Canterbury 応募状況報告〔小平委員, 荒井委員〕
  - ・New Jersey 追加公募検討〔阿波根部会長補佐, 荒井委員〕
4. J-DESC コアスクール 開催報告・今後のコアスクール開催手順について
  - ・コア解析基礎コース〔池原委員〕
  - ・コア同位体分析コース〔池原委員〕
  - ・コア記載エキスパートコース〔坂本委員〕
  - ・古地磁気コース準備状況について〔山崎委員〕
5. 専門部会・WG 活動報告
  - ・科学計測専門部会, 孔内計測 WG〔坂本委員, 事務局〕
  - ・掘削提案の育成WGの報告〔山本委員〕
6. プロポーザル育成・評価委員会(仮)の設置について〔荒井委員, 川幡部会長〕
7. 日韓交流関連〔松本委員, 川幡部会長〕
  - ・東シナ海における日韓プロポーザル提案
  - ・日韓合同深海掘削シンポジウム 2008（地質学会）
8. 地球惑星連合大会関連
  - ・地球掘削科学セッション〔井上委員, 事務局〕
  - ・J-DESC タウンホールミーティング(旧称:J-DESC 情報交換会)〔川幡部会長, 事務局〕
9. SPC 委員選出について〔川幡部会長, 事務局〕
10. J-DESC 総会資料確認〔事務局, 阿波根部会長補佐〕
11. その他
  - ・日独若手交流 外国人研究者招聘の際のビザ手続きについて
  - ・次回開催日程について

## 議事録（案）

### 1. J-DESC/AESTO 旅費規程変更のご報告

資料 1 に基づき、AESTO より標記の件について説明がなされた。

- ・ 平成 20 年度より出張旅費清算の際に航空券の半券も提出するよう規定が変更された

### 2. SPC, PMO 会議報告

資料 2-1 に基づき、SPC 会議について山本委員、川幡部会長より、PMO 会議について事務局、川幡部会長よりそれぞれ報告がなされ、その後、Big Meeting について各委員から意見が述べられた。

#### ●SPC 会議

- ・ OTF, SPC にあったプロポーザルの再ランキングを行った
- ・ ランキングに入った 26 のプロポーザルを Tier1, 2 に区分した
- ・ Tier1 は OTF にとどめ置き、Tier2 はスケジュールの都合で実行される可能性がある
- ・ Okinawa Trough Deep Biosphere は 2 位にランキングされ、Tier1 にグルーピングされた

#### ●PMO 会議

- ・ オーストラリア・ニュージーランドの IODP への参画準備状況が報告された
- ・ 各 PMO における Funding の状況、SAS パネルの状況、各オペレーターからの航海準備状況の報告がなされた
- ・ ヨーロッパではサマースクールを 3 週間程度行っている
- ・ Great Barrier Reef の Co-chief はオーストラリア人と日本人になる確率が高く、ふさわしい人を推薦した

#### ●Big Meeting について

- ・ 2009 年 9 月に行われる予定の Big meeting について、ヨーロッパが強く開催を希望している
- ・ 参加者は 4~500 人
- ・ 開催費はホスト国がすべてをまかなう（MI, MEXT からの支援はない）
- ・ 日本（横浜）で開催する場合、4~5 日間の会場費で約 1000 万円かかる
- ・ 日本で開催することになれば、次期執行部が主導する
- ・ 予算項目に Big meeting への旅費を 15~20 人分くらいで入れ込む
- ・ 予算の出所としては、IFREE などが考えられる
- ・ 日本としては、ヨーロッパ開催を支持する
- ・ Big meeting 前に国内でワークショップを開き、国内研究者の意思統一および若手研究者の育成を図る
- ・ ワークショップは会員提案型活動経費を使つての開催を検討する

阿波根：ちきゅうのライザーが終わった後に日本で開催するのが良い。アメリカではすでに 1 度開催していることもあり、今回はヨーロッパで開催するのが良いのではないかと。

池原：日本でやるには時期尚早だと思う。

井上：ヨーロッパで開催するのがよい。

松本：諸条件を考えれば、今回日本で開催するのは難しい。今 1500 万円あればほかのことに使った方がよい。ヨーロッパが立候補するのであれば、ヨーロッパで開催するのが良い。

北村：ヨーロッパでやるのが良い。

高澤：順番を考えてヨーロッパでやるのが良い。

山崎：日本でやるメリットは、このように **Science** が進んでいくということを目の当たりにすることができるよい機会があると言う意味では、日本でやるのはよいと思うが日本とアメリカでは一度開催しているので、次はヨーロッパでやるのがよいと思う。若手が多数出席できるような旅費支援を考えて欲しい。

荒井：日本は次回開催する方向で今回は見送る。

山本：**Deep Biosphere** の立場からみれば、具体的な成果がまだないため **Big meeting** を開催することはあまりよくない。日本では開催しない方が良い。

山田：順番としてヨーロッパで開催するのが良い。

坂本：ヨーロッパで開催するのが良い。旅費支援をしてもらえると良い。

日野：次の **ISP** を作る会議なので、日本としてどこか重点的に議論をリードするところをつくる必要がある。日本から人がたくさん行けるという意味では、アメリカが良い。

安間：ヨーロッパ、アメリカどちらでも良い。日本は体制が整っていないと思う。

江口：2013 年から先に **IODP** が続くかに関わる会議でもあるため、日本での開催も視野に入れるべきなのでは？

### 3. 乗船者公募関連

資料 3 に基づき、小平委員、荒井委員、阿波根部会長補佐より報告がなされた。

#### ● Canterbury 応募状況報告

標記の件について小平委員より説明がなされた

- ・ 応募者が集まらない状況は変わらない
- ・ 引き続き乗船者を募集する

#### ● New Jersey 追加公募検討

資料 3 に基づき、標記の件について阿波根部会長補佐より報告がなされた

- ・ 少なくともブレーメン（**onshore party**）に参加できることを条件として、3 名（堆積，岩石物性，地球化学）の追加公募を出した
- ・ **Offshore party** の日程は決まっていない

- 今年の地質学会で、今後予定されている航海の宣伝を行う（20 分程度）

- そのための簡単なパンフレットを作成して配布する

### 4. J-DESC コアスクール開催報告・今後のコアスクール開催手順について

コア解析基礎コース

資料 4-1 に基づき、池原委員より報告がなされた。

- ・ 3 月 15 日～18 日に高知コアセンターにて開催

- ・ 参加者は 24 名（学部生が半数近く）

#### コア同位体分析コース

資料 4-2 に基づき、池原委員より報告がなされた。

- ・ 3 月 19 日～21 日に高知コアセンターにて開催
- ・ 参加者は 12 名

#### コア記載エキスパートコース

資料 4-3, 4-4 に基づき、坂本委員より報告がなされた。

- ・ 3 月 19 日～21 日に高知コアセンターにて開催
- ・ 参加者は 15 名
- ・ 高知コア研究所より、J-DESC コアスクールを高知コアセンターで開催することについて、責任の所在や安全対策などに関して改善が求められた
- ・ 実施要領書を作り、実施機関に要請をした上で責任の所在を明らかにする必要がある
- ・ 保険加入などは実施機関の要請に応える。学生が加入している保険は高知コアセンターが適用外である可能性があるため、J-DESC が保険に加入させることも考えた方が良い
- ・ この件については 5 月をめどに整備する

#### 古地磁気コース準備状況について

- ・ 8 月 6 日～8 日に開催予定
- ・ 場所は高知コアセンター
- ・ 講師旅費について次回検討する

### 5. 専門部会・WG 活動報告

#### 科学計測専門部会、孔内計測 WG

資料 5 に基づき、標記の件について池原委員より報告がなされた

- ・ 計測部会の提言として、コアスクールを単位が出るカリキュラムとして認定しようとする際に J-DESC での対応をお願いする
- ・ 実習用のコアを確保する必要があり、継続的に取得することへの対応を J-DESC に要請したい
- ・ 新 STP 委員に現専門部会長の斎藤実篤氏が選出された
- ・ 次期専門部会長には九州大学の石橋氏が選出された

### 6. プロポーザル育成・評価委員会（仮）の設置について

資料 6 に基づき山本委員より、資料 7 に基づき荒井委員より標記の件について説明がなされ、その後、本件について各委員から意見が述べられた。

- ・ 2013 年以降を見据えて掘削提案の応募を活性化するためには、長期展望に基づく育成計画が必要
- ・ A) プロポーザルの育成（ベテラン）、B) 乗船研究者のノミネーション（ベテラン）、C) SSEP

への対応の3つの機能が必要である

- **A 掘削科学委員会（仮）**：J-DESC のサイエンティフィックな戦略を練る部会。2013 年以降のサイエンスプランやプロポーザルの発掘やそのための情報提供を行う。委員長は山本委員
- **B 研究航海推進委員会（仮）**：乗船のノミネーションを行う部会。OFT に上がったプロポーザルに関してフォローし、人材を集めるなど、乗船戦略を検討する。委員長候補は西氏（現科学推進専門部会委員/SSEP 委員）。
- **C**：SSEP 委員のノミネーションは執行部でリストを作成することで対応
- 科学推進専門部会を2つに分けることを IODP 国内科学計画委員会に提案する
- 執行部は他の委員会との兼任ができないため、兼任の必要性を訴える
- IFREE から：4月下旬、所内の構造調査プロポーザルの提出締め切りがある

阿波根：SSEP 委員育成に関して現在国内では公募になっているため、科学推進専門部会では今もやっていない。したがって執行部でリストを整備しておくなどすればよい。

池原：プロポーザル育成に関して、いつでも聞けるような（経験豊富な）組織や人材への問い合わせのラインを作ることが重要。

井上：委員会の人選は誰がやるか？何人くらい？（川幡：委員長は執行部で選出。委員は各々で決定する。ノミネーションは6人程度、プロポーザルはもう少し多い人数）

松本：今まではプロポーザル育成、ノミネーション、SSEP への対応についてこれまで1つの委員会が行っていたのか？（川幡：タスクとしてはあったがプロポーザル育成については余り機能していなかった）

北村：委員会を設置するに当たっては、新しい委員会の長に、ある程度の権限を与えることでより効率が良くなっていくのではないかと思う。アメリカなどでどのようなシステムでやっているかを参考にするのもひとつの案。（川幡：アメリカやヨーロッパでは委員の兼任が行われている）

高澤：3つのタスクのうち、プロポーザルの育成と SSEP への対応に関しては1つの委員会にまとめることができると思う。

山崎：評価委員会を作らなくても科学推進専門部会のタスク（プロポーザルの育成とノミネーション）を明確にすることでできるのではないか？SSEP 対応への人材に関しては、執行部がリストを整備すればよい。

小平：プロポーザル育成委員会に関しては、運用の方法は考える必要がある。育成の対象はポストドクや若手研究者で、プロポーザルに関してわからないことがある人に対して助言を行う委員会にするのが良い。ノミネーションに関してはこれまでのやり方は機能していると思うので、方法は変えないでやるのがいいと思う。

荒井：リードプロポーネントが日本人ではない航海についてどうカバーできるかが課題であると思う。SPC でランキングされた状態から動き出し、その航海が実現するまでのイメージを戦略として作り上げていくシステムとして機能することが必要ではないか。

山本：プロポーザルとして形になるまで（プロポーザルとして書けそうな段階とそれよりも前の段階）をフォローアップする委員会として位置づけることを考えている。

山田：プロポーザルの芽を支援していくための情報を集めるのは大変。必要であればその支援を行うということを会員機関のメリットとしてアピールする方向で行くのが良いと思う。

坂本：プロポーザルの育成，ノミネーション，航海の研究成果，SSEPの委員。プロポーザルの育成と航海成果については部会がうまく機能していないことが問題である。新たに委員会を立上げることは、気持ちを切り替えるのに良いと思う。SSEP委員の事前会議については引き続き行っていくべき。

日野：次のISPを策定する人材を育成することを見据えた委員会を作るべき。通常のルーチンでできることに関してはその下でできれば良い。（川幡：確かに、次のサイエンスをどうするかについてはどの部会でもやっていないことは困る）

安間：乗船者ノミネーションについては今までどおりに任せておけばよいと思う。プロポーザルの育成に関しては、助言だけでなくプロポーネントになり、個人的にサポートしていくほうが早い。そのための人材リストを作るのが良いのでは？

## 7. 日韓交流関連

### 東シナ海における日韓プロポーザル提案

追加資料1に基づき、松本委員より報告がなされた。

- ・ 3月26日に韓国に赴き、日韓プロポーザル作成および9月の地質学会におけるシンポジウムに関して協議を行った
- ・ 韓国側はこちらからの提案にたいへん前向きであった
- ・ これから資料に関して韓国側との調整・合意が行われる予定
- ・ プロポーネントには中国人を入れて、東アジアとしてのプロポーザルとの印象を与えるのは得策かもしれない
- ・ 9月の地質学会には3人くらいをJ-DESCで招待する予定

### 日韓合同深海掘削シンポジウム2008

資料8に基づき、事務局より報告がなされた。

- ・ 9月の地質学会のシンポジウムとして申し込みを行った
- ・ 行事委員会で審査されるがほぼ通る見込み

## 8. 地球惑星科学連合大会関連

### 地球掘削科学セッション

資料9に基づき、井上委員より報告がなされた

- ・ 5月27日の午前にセッションが開催される
- ・ オーラル発表は各12分で11件、セッションの最後に総合討論の時間を15分とった

### J-DESC タウンホールミーティング（旧称：J-DESC 情報交換会）

川幡部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・ 17:30 開場，18:00 から文科省の方に、国の考えを5～10分程度で述べてもらう。その後、IODP、陸上掘削部会からそれぞれ5～10分くらいで話題を提供してもらう

## 9. SPC 委員選出について

標記の件について川幡委員より説明がなされた。

- ・ 益田委員の後任の選出が必要
- ・ 通常は公募を行う
- ・ 松本委員が川幡部会長より推薦された

## 10. J-DESC 総会資料確認

資料 10 に基づき、事務局および川幡部会長より標記の件について説明がなされた

- ・ 議長は同志社大の林田氏に依頼する予定
- ・ J-DESC への入会に関して、IODP に関わっている研究者が多い機関（JAMSTEC など）には研究グループ単位（複数口）での入会の検討を要請する
- ・ 複数口での入会の場合は総会における承認が必要なため、4/6 の総会にて承認を求める
- ・ 予算に関する資料について、単年度での収支は次年度への繰越金を含めて同じ金額にする
- ・ J-DESC コアスクールの旅費支援は 1 万円に増額

## 11. その他

- 日独若手交流 外国人研究者招聘の際のビザ手続きについて  
資料に基づき、標記の件について事務局より説明がなされた。
- IODP 第 315 次航海にて採取した未処理コア処理への研究者派遣について  
標記の件について、事務局より説明がなされた。
  - ・ Exp. 315 および 316 乗船研究者のうち Co-chief および研究者 4 名が記載パーティーのために高知コアセンターに行く旅費について負担してほしい旨の要請があった
  - ・ この記載パーティーは IODP-MI によっても正式にオーソライズされている
  - ・ 各 PMO にも連絡は行っているが現在のところ特に異議はない
  - ・ 本件については例外として、研究者派遣に乗船研究のための旅費として旅費を出すことが承認された
- 次回開催日程について  
4 月 6 日 12:00～13:30（総会前）  
次々回は 5 月に開催（J-DESC コアスクールのあり方について議論する予定）